

# 完了報告書

記入年月日 2026年3月11日  
採択団体名 石川県立輪島高等学校

## ■事業概要

基本情報	
事業名	地域資源を活かした多世代参加型コミュニティ防災教育事業
事業内容	事業内容①：防災運動会 事業内容②：復興探究視察 事業内容③：小型発電機試作研究 事業内容④：防災講演会 事業内容⑤：成果発表会
事業背景	令和6年に、1月に令和6年能登半島地震、さらに9月には奥能登豪雨と2度の災害に遭った。その時、過疎・高齢化や、インフラの課題などが浮き彫りとなり、本校の「総合的な探究の時間」において、令和6年度より「WAJI活」と称して復興をテーマとした取り組みを行うこととなった。その中で、特に上記5項目に関する取組を行いたいと思いつている。
コミュニティ 設立の経緯	石川県教育委員会よりこの事業についての紹介があり、総合的な探究の時間の活動がそれにあたる とのことであった。それで、令和6年より行っている「WAJI活」で活用可能であるとのこと であったので、活動の充実を図るべく設立した。
本事業に関する過去 の取り組み内容	本事業においては、現2年生が中心となり、2月より探究活動を行っている。震災の復興がな かなか進まないということもあり、施設面の問題など事業開催まで至らず、その方策を練っている状 況である。
事業体制	石川県から紹介された団体「カタリバ」の復興探究サポーターの協力を得て、様々な活動を行っ ている。上記、事業については探究活動そのものに対する助言・指導をいただいている。
全体スケジュール	< 9月～10月> ・週1回の総合的な探究の時間における探究活動 ・9月25日 令和7年度学校安全総合支援事業（災害安全）（石川県主催）における防災講演会 < 11月～12月> ・週1回の総合的な探究の時間における探究活動 ・11月1日 「WAJI活」中間発表会 場所：本校第一体育館 < 1月～ 3月> ・週1回の総合的な探究の時間における探究活動 ・2月14日 防災運動会 場所：本校第二体育館 ・3月 探究最終成果発表会（1学年・2学年）

事業目標・事業成果	
事業目標全般 (教育提供者側)	<p>本校の「総合的な探究の時間」において、令和6年度より「WAJI活」と称して復興をテーマとした取り組みを行うこととなった。</p> <p>■防災教育の提供者（石川県立輪島高等学校）・復興に対する現状の課題発見とそれに向けての探究活動</p> <p>■防災教育の参加者（地元住民）・防災運動会への参加・防災意識の高揚</p>
事業成果全般 (教育提供者)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「総合的な探究の時間」(WAJI活)を通して、ふるさとの現状についての理解が深まっている。</li> <li>防災に対する意識が高まっており、本校からも防災士を受験する生徒2名も生まれてきている。(うち1名合格)</li> <li>探究学習を通じ、輪島市の現状を多角的・多面的に見つめ、地域に密着した取り組みを企画立案できるようになっている。</li> </ul>
事業目標全般 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災運動会への参加を通して、防災に対する意識を高めるとともに、体力の維持・向上の機会とする。</li> <li>探究の成果発表会に参加し、復興・防災の意識を共有する。</li> <li>地域住民や企業など多様な連携を大切に、校内の活動のみならず、地域を密接な活動につなげる。</li> </ul>
事業成果全般 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> <li>2月14日に防災運動会を実施した。様々な年齢・性別の住民方々や、県外で防災について探究している高校の生徒の参加もあった。幅広い参加層に応じた活動内容を考え、密度の濃い活動となる。</li> <li>11月1日に行われた「WAJI活中間発表会」には、住民・保護者・有識者等が約200名参加した。参加者は、高校生からの提案や発表に耳を傾けていた。生徒主体の運営を心掛け、生徒は自己有用感を感じることもできた。</li> </ul>
展開できる 知見やノウハウ	<p>奥能登地域は、これまで地震等の災害が極めて少なかった。2007年の能登半島地震が起こった時、しばらく地震は起こらないと安堵していたが、令和6年能登半島地震の発災により、防災に関する意識が非常に高まった。その復興のアイデアを高校生が「総合的な探究の時間」において自ら主体的に探究し、単なる考察に留まらず、発表会や学年間の交流を通じて、継続的に高校から発信できる体制となったこと。</p>
コミュニティ防災教育の重要な観点	<p>防災や地域活性化などに関する知識や経験に乏しい生徒たちが、自らの故郷の復興、その一つとしての防災意識高揚について探究するためには時間必要である。さらにその探究内容について、学年をまたいで継続できることも大切である。</p> <p>他団体のように地域に効果を直接的に提供することではなく、本校では生徒が探究活動を通じて自らの防災意識を高めることが、地域の防災意識向上につながると考えている。また、その活動を行うためには復興探究コーディネーターの存在が大きく、密接な連携が大切である。</p>
残課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災者である生徒の中にはPTSDを抱えているものが多く、事業遂行においても慎重さが求められる。そのため、他の機関や校務分掌、スクールカウンセラーとの密接な連携が必要である。</li> <li>他地区・他団体とは異なり、解体工事や災害の爪痕があり、活動の場所、人員も日々目まぐるしく変わっている。そのため、活動場所の選定も重要な要素である。</li> <li>生徒自身が探究活動を通じて、着実に探究活動のルーティーンをこなしていることが、自身の成長を実感できるいい機会となっている。その中で、より深い学びに対応できる人的環境や物的環境の確保が難しい。</li> <li>学年間の交流により探究の継続性も意識し、さらに、学年独自の課題の発見など、知識・ノウハウの伝承を少しずつではあるが、着実に行われている。</li> </ul>

■事業内容

事業内容① 防災運動会	
事業内容①目標 (提供者側)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災意識の向上 生徒自身が探究活動を通して、防災の重要性を理解するとともに、発災時の適切な行動や、また、日頃からの災害に対する備えについて学ぶ機会を提供する。</li> </ul>
事業内容①目標 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災意識の向上 防災の重要性を理解し、発災時の適切な行動や、また、日頃からの災害に対する備えについて学ぶ機会とする。</li> <li>・ 地域社会の結束や共助の気持ちの育成 防災運動会は、地域社会の結束を促進し、災害時に協力し合う姿勢を育む。</li> <li>・ 体力づくり 体力増進を図る。</li> <li>・ 防災に対する知識を得る 身近なもので作ることができる防災グッズの紹介やクイズ大会を実施することで、年齢や性別問わずに充実感を得る機会を設ける</li> </ul>
事業内容① 実施内容	<p>週1回の「総合的な探究の時間」発災時における、状況を振り返り、その中で、どのような競技がふさわしいか、対象・場所などをどのようにするかを考えた。</p> <p>2026年2月14日(土)に本校で防災運動会を実施した。心肺蘇生や担架リレーなど体を動かして楽しみながら防災の知識が得られる競技や、また、防災に関するクイズ大会、さらに新聞紙で作るスリッパなどの非常時に役立つ防災グッズの作成などを行った。老若男女約40名の参加者があり、それぞれの性別や年齢に応じて参加し、充実した時間を過ごしていた。</p>
事業内容①を実施する中で発生した課題や失敗点	<p>■発生した課題や失敗点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育活動の一環であり、時間に制約がある。</li> <li>2 被災地であり、多くの平地が仮設住宅に用いられており、適当な実施の場所の選定が困難</li> <li>3 家屋が失われ、仮設住宅に入居しているなど、地域のコミュニティが崩壊しており、参加者を募ることが難しい。</li> <li>4 様々な性別、年齢の参加者に対して活動内容を考える必要がある。(体力差など)</li> </ol> <p>■乗り越えた方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業外であっても、生徒は集まって探究活動を行っている。</li> <li>2 校内の施設を、他の部活道との調整を図りながら使用することとした</li> <li>3 地域の仮設住宅やチラシを配布したり、輪島市の公式LINEに載せてもらうなど、幅広く周知した。また、他県の防災に関する活動をしている高校の生徒の参加も決定した。</li> <li>4 体を動かす活動だけではなく、クイズ大会、防災グッズ作成や、交流の機会を作るなど、たくさんの住民触れ合いの時間を工夫をした。</li> </ol>
事業内容①を実施する上で工夫した点	<p>限られた時間、施設等のため、実施の具体化には時間がかかる。しかし、探究活動の本来の目的は「取り組みを通じた生徒の防災意識向上」が第一であり、それが、家庭や住居地区住民との交流を通して地域に伝播すると考えている。その点から、制限された条件で生徒が工夫して、参加年齢やそれに応じた競技等を考え、真摯に取り組むことは、その成果につながっていると感じている。</p>
事業内容① 残課題等	<p>復興が進むにつれ社会の様子も変わる。また、人口流出・高齢化が急激に進み実施内容も変わっていくと考えられる。また、住居形態も変化していく中、競技内容・対象・場所・時期等の選定や周知方法などをその時の状況に応じて細やかに考えていくことが大切になってくるだろう。</p>

事業内容② 復興探究視察	
事業内容②目標 (提供者側)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復興において、過疎地・超高齢地域におけるコミュニティの維持や、その環境下での街づくり、防災意識の啓発の取組を視察する。</li> <li>・実際、被災地でありながら、視察する生徒自身がその復興の過程を体感することで、ふるさとの未来に希望をもたせるきっかけとする。</li> </ul>
事業内容②目標 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復興において、過疎地・超高齢地域におけるコミュニティの維持や、その環境下での街づくり、防災意識の啓発の取組の参考とする。</li> <li>・実際、被災地でありながら、視察する生徒自身がその復興の過程を体感することで、ふるさとの未来に希望をもつ。</li> </ul>
事業内容② 実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施に関して、学校行事が立て込んでおり日程調整が困難な状況。</li> <li>・別事業での視察や発表会等があり、本事業での実施が難しい。</li> </ul>
事業内容②を実施する中で発生した課題や失敗点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動や授業、また、他の教育活動などが立て込んでおり実施困難であった。</li> </ul>
事業内容②を実施する上で工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事・学校生活を優先させることに傾注する。</li> </ul>
事業内容② 残課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動や授業、また、他の教育活動などが立て込んでおり、実施計画が困難である。生徒の学校生活での教育活動が優先であり、実施は困難であった。また、本校での他行事で防災に関する視察や発表会などが催されている。</li> </ul>

事業内容③ 小型発電機試作研究	
事業内容③目標 (提供者側)	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災時における大規模停電の実経験から、電力供給問題点を振り返り、不足を補う術を考える。</li> <li>地域の特徴を生かしたエネルギー供給方法を考え、そこから故郷の特徴を知る。</li> <li>地域の自然景観や気象条件、また、産業から考えられる発電方法を考察し、非常時における電力確保の方策を考察する。</li> </ul>
事業内容③目標 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民が電力等のエネルギーについての意識が高まり、その平常時において、蓄電やエネルギー確保の意識が高まる。</li> <li>故郷の特徴を考慮し、この地域に合ったエネルギー発生システムについて考えることができる。</li> <li>エネルギー問題に対する関心が高めることができる。</li> </ul>
事業内容③ 実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>週1回の「総合的な探究の時間」において発災時における状況を振り返り、その中で、携帯電話等の通信機器の電力確保が重要であると考ええる。</li> <li>輪島市の産業や地形、気候などを考慮し、ふさわしい発電方法について考え、その実証実験を行っている。</li> <li>廃油や雪などを応用した発電システムについての実証実験を行い、仕組みを理解している。</li> </ul>
事業内容③を実施する中で発生した課題や失敗点	<ul style="list-style-type: none"> <li>■発生した課題や失敗点 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育活動の一環であり、時間に制約がある。</li> <li>2 専門的知識に乏しく、一つ一つの探究に時間がかかる。</li> <li>3 専門機器がなく、手作りで探究活動を行っているため、実践的開発には時間がかかる。</li> </ol> </li> <li>■乗り越えた方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業外であっても、生徒は集まって探究活動を行っている。</li> <li>2 様々な発電手段のグループが相談しながら、取組を行う。</li> <li>3 生徒への声掛けを密に行うことで、諦めることなく粘り強く装置の改良を行う。</li> <li>4 他の企業の助言をいただくことで、より深い学びにつなげる。</li> </ol> </li> </ul>
事業内容③を実施する上で工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>発電方法だけではなく、備蓄やその共有の方法なども考え、生徒の視野や探究の幅を広げる。</li> </ul>
事業内容③ 残課題等	<p>専門的知識もなく、手探り状態での探究学習であったため、作成した発電機器の実証実験などに多くの時間がかかった。現在は発電システムの検証が主であるが、今後はエネルギーの活用方法の視点を取り入れる。社会的には仕組みはすでに実践されており、その活動から得られる防災に意識向上や地域への広がり、発信等について、改めて考える必要がある。</p>

事業内容④ 防災講演会	
事業内容④目標 (提供者側)	・講演会を通じて今回の震災の特徴を知り、防災に対する知識を身につけさせる。
事業内容④目標 (参加者側)	・講演会を通じて、今回の震災の特徴を理解し、ふるさとの自然との共存について考える機会とする。
事業内容④ 実施内容	9月25日(木) 令和7年度学校安全総合支援事業(災害安全)(石川県主催)における防災講演会 講師:金沢大学人間社会研究域地域創造学系准教授 青木賢人氏
事業内容④を実施する中で発生した課題や失敗点	<p>■発生した課題や失敗点 避難訓練と同時に行ったため、PTSDの発症に対する慎重な対応が求められた。</p> <p>■乗り越えた方法 教育相談課、スクールカウンセラーなどと協力し、事前に生徒に声掛けを行うとともに、訓練の際は警報音などを用いずにアナウンスで行う等、少し緊張感を和らげる工夫を行った。</p>
事業内容④を実施する上で工夫した点	今年度は、2度の避難訓練は実施日時を通知せずに行ったため、より実践的なものとなった。そのため、生徒は震災経験もあり、真剣に取り組み、防災に対する意識が向上したと感じられた。能登半島の地形の特徴や、ハザードマップの大切さなどを知り、関心を高めることができた。
事業内容④ 残課題等	生徒たちの、意識が発災から時間が経過し個人差が生まれている。そのため、防災に対する意識の高低も生じ始めている。そのことを念頭に、風化しないよう思いを伝えていく取り組みが必要である。

事業内容⑤ 成果発表会	
事業内容⑤目標 (提供者側)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒がこれまでの探究活動の成果を発表する機会を与える。</li> <li>・生徒プレゼンテーション能力の向上を図る。</li> <li>・視聴した地元住民が、生徒たちの活動を見て、生きるエネルギーを得るとともに、防災について考える機会を与える。</li> </ul>
事業内容⑤目標 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒がこれまでの探究活動の成果を発表し、生徒プレゼンテーション能力育成する。</li> <li>・視聴した地元住民が、生徒たちの活動を見て、生きるエネルギーを得るとともに、防災について考える。</li> </ul>
事業内容⑤ 実施内容	<p>11月1日(土) いしかわ教育ウィークの特色ある取り組み「WAJI 活中間発表会」の中で、他の探究活動と同時に実施。指導助言をいただいた団体や保護者、地域住民が生徒の発表を参観した。約200名の参加があった。</p> <p>また、3月には各学年の探究発表会があり、互いに視聴し合い知見を広める機会とする。</p>
事業内容⑤を実施する中で発生した課題や失敗点	<ul style="list-style-type: none"> <li>■発生した課題や失敗点 特になし。</li> <li>■乗り越えた方法 学年団やその他の分掌が綿密に連携した。</li> </ul>
事業内容⑤を実施する上で工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いしかわ教育ウィークに時期を設定することで、地域の方が来校しやすくなった。</li> <li>・様々な場所にチラシを配布したり、仮設校舎のお披露目会など、その他のイベントも同時開催して参加者を増やすよう工夫した。</li> <li>・生徒自身が司会や進行などを自ら運営するよう企画した。</li> </ul>
事業内容⑤ 残課題等	<p>最終発表会に向けて、これまでの探究結果を振り返り、内容を深化させていく。また、最終発表会の目的は、探究の継承の目的もあり、防災テーマの継承を意識した発表も計画する必要もある。</p>